

<p>「KPT」と「なぜなぜ分析」を応用した KWS 振り返りの研究報告 ～実際の現場で検証した KWS 振り返りと、結果を横展開する仕組みの提案～</p>
<p>Research of "KWS Retrospectives" by which improved "KPT" and "Whys analysis" were applied Proposal of "KWS Retrospectives and using result in organization" method which verified on actual field ～ Proposal of "KWS Retrospectives and using result in organization" method which verified on actual ～</p>
<p>花原 雪州 Sessyu. Hanahara@jp.sony.com ソニー株式会社 デバイスソリューション事業本部 品質信頼性部門 品質企画部</p>
<p><b>発表要旨：</b> 「KPT」と「なぜなぜ分析」を応用した「KWS 振り返り」の仕組み、および企業6社(金融、医療、IT、半導体、民生用製品)内の「開発プロジェクトや支援業務」の「実際の現場」で実施した事例と、確認できた効果を説明する。更に、「KWS 振り返り」で得られた知識や知恵を横展開するための仕組みも提案する。 ※「KWS 振り返り」の研究は、一般財団法人 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質管理研究会 2011 年度(SQiP 研究会)において、優秀賞を受賞したものである。「KWS」は、手法の頭文字 ([K]PT【Keep/Problem/Try】+[W]hy【なぜなぜ分析】+[S]olution【対策】)を繋げた造語。 企業の「現場」で「振り返り」を実施する目的は、「個人や組織」の「活動の質と成果」の「継続的な改善」であり、多くのメリットや効果が期待できる。しかし、「形式的」「儀式的」に実施されたり、振り返りで挙げられた「改善策が実施されない」など、いわゆる「やりっ放し」の振り返りが多い状況も散見される。 「KWS 振り返り」の仕組みは、「振り返り自身の課題」を解決し、本来の振り返りの目的を達成するために開発したものである。 本発表が「これまでの振り返りのやり方に課題を感じていた」、「自分たちの現場で役に立つ振り返りを模索していた」方々のご参考になり、実際の現場でお試し頂ければ有難いと考えている。</p>
<p><b>キーワード：</b> 振り返り、KWS 振り返り、KPT、Keep、Problem、Try、なぜなぜ分析、ロジカルシンキング、MECE、SSM、SQiP 研究会</p>
<p><b>想定している聴衆</b> 高成熟度組織の方、SEPG 初心者、品質保証の方、ソフトウェアエンジニア、現場の管理者/責任者などを含め、業種、職種、ソフトウェア/ハードウェアなどを問わず、「これまでの振り返りに課題を感じていた」、「自分たちの実際の現場で役に立つ振り返りを模索している」全ての方々</p>
<p><b>発表者の紹介：</b> ・ PMP ・ 一般財団法人 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質管理研究会 2011 年度 第1分科会 Gp B リーダ(優秀賞 受賞 <a href="http://www.juse.or.jp/software/394/attachs/SQiP1-B.pdf">http://www.juse.or.jp/software/394/attachs/SQiP1-B.pdf</a> )</p>